



徳成寺 寺とかわら版

第133号 2018年1月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

新年あけましておめでとうございます。年頭に明治から昭和

初期の自由律俳人で種田山頭火の「分けいっても分けいっても青い山」

という句が思い出されました。生活文化の急速な変化の中で、昨日までの

常識が、非常識に転じる時代です。次から次へと新しいものが古くなります。

お寺や仏教も、古臭くてとっくの昔に時代遅れだと思われるのかも知れません。

ただ、この句は人類の歴史が日々更新され、まさしく「分けいっても分けいっても」

それでも未だに知りえない人生全体の不思議、人間の尊さそして世界の素晴らし

さがあると訴えているかのようです。それらを説いたのが仏教であり、

お寺はそれらを学ぶ場です。2018年いよいよ分けいって参りましょう。

発行責任者

住職

大山健児

土守

大山ひとみ



*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

大山超世の耳を澄ませば

どうも、長男です。2017年はお世話になりました。2018年もよろしくお願ひします。どうやら門徒さんの中で私の事はなんと呼ばば？という話がちらほら出ているようです。

ごじゅう じゃくいん わかぼう
後住、若院、若坊、etc…という事で色々呼び方はあるそうです。

個人的には「若さん」という呼称が何となく印象深いです。

法衣を売りながら全国を回っている方に「若様でいらっしゃいますか」と声をかけていただいたことが印象に残っています。

くすぐったい響きではありますがよろしくお願ひします。

